



学校法人履正社 理事長
釜谷 等

かまや・ひとし氏
1952年生まれ
1976年 同志社大学法学部法律学科卒業
学校法人履正社入職
1993年 理事
1997年 専務理事、専門学校校長
2019年 理事長

*学校法人履正社設置校・施設
履正社医療スポーツ専門学校
履正社スポーツ専門学校北大阪校
履正社高等学校
履正社学園豊中中学校
履正スイミングクラブ十三校・曾根校・金剛校

創設100周年に向けて、スポーツをコアにした専門人材を育成

創設のコンセプトは商業

学校法人履正社は、1922年に創立者である釜谷善藏が創設した、大阪府福島商業学校が始まりです。商人になるには丁稚奉公しか道がなかった時代、商いの街大阪で、読み書きそろばんのできる商人、今でいう企業人の養成が目的でした。

建学の精神として示した校訓三綱領は、「履正不畏」「勤労愛好」「報本反始」です。「履正不畏」とは、自分が正しいと信じることを畏れずに行うこと。「勤労愛好」とは、勉学に勤しみ、国家社会に貢献すること。「報本反始」とは、初心にかえり、今日の自分があるのは、両親や関わった全ての人のおかげと感謝する気持ちを忘れないということです。

1940年には、当時、私立では珍しかった普通科の旧制履正社中学校を開校しました。しかし1944年の戦火で2校とも校舎が焼失してしまいます。1946年に履正社中学校を再開し、福島商業学校に名称変更しました。1970年には商業学校を豊中市に移転し、空いた十三の地に、商業学校のノウハウを活かした十三経理専門学校を開校しました。さらに同じ敷地内に、別事業でスイミングスクールも併設しました。

福島商業学校が高等学校になり、1983年に普通科の履正社高等学校に改称しました。進学率の上昇で、商業や工業の実業学校は、普通科に行けなかった子が不本意入学する学校という位置づけになってしまったからです。創設のルーツである商業というコンセプトと決別せざるを得ない時でした。

同じ年に、専門学校の校名を、より所在地が分かりやすいように大阪情報経理専門学校に改称。1985年には履正社学園豊中中学校、1988年には女子をターゲットに大阪秘書ビジネス専門学校を開校しました。中学、高校、専門学校、スイミングスクールという現在の基盤がこの頃出来上がりました。

新ミッション「スポーツと医療」

1998年、専門学校にも大きな転機が訪れました。大

阪秘書ビジネス専門学校を、履正社学園コミュニティ・スポーツ専門学校に改称したことです。大手のビジネス系専門学校がこぞって大阪に進出してきたのです。閉校の危機でしたが、スイミングスクールとフィットネスクラブを経営していたのがここで生きてきます。既に指導者のリソースを活かし、経理学校でフィットネスクラブのフロントスタッフを育てる授業や、正課のサッカーコースを開講していたため、経理学校をスポーツの学校へ切り替える決断をしました。

始めてみると、トレーナーになりたいという学生が増えてきました。そこで、文科省が管轄する日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を取得できるようなカリキュラムの構築と教員の配置に取り組みました。さらにトレーナーの多くが、鍼灸師や柔道整復師の医療系国家資格を持って活躍しているケースが多いと分かったので、トレーナーと医療資格を同時に取れる認可基準を満たそうと動き出しました。2002年に医療専門課程に鍼灸学科と柔道整復学科、2005年に理学療法学科を設置。現在は競技スポーツ(4コース)、医療(3学科)、トレーナー(2コース)と、3分野の学科・コースを展開しています。なかでも「医療+アスレティックトレーナー」など、分野を組み合わせ学べる「ダブル・ラーニング制度」は、別々に履修するより授業料が大幅減免、3、4年で卒業できるとあって費用対効果も高く、本校の強みになっています。

その後、医療系の教員達から、校名に医療とつけてほしいとの声が高まり、2008年、履正社医療スポーツ専門学校に校名を変更しました。2017年には緑豊かな箕面の地に履正社スポーツ専門学校北大阪校を開校し、現在、十三、茨木、箕面の3キャンパスで、815人の生徒が学んでいます。

日本初の「スポーツ特化型 語学学校」

2020年4月、本校は日本で初めて、スポーツに特化した語学を学べる高等教育機関として「スポーツ外国語学科」を新設します。これは、グローバル化するスポーツの現場で生きていける人、“スポーツ・イングリッシュ

ユ・パーソン”を育成する、スポーツ特化型語学学校です。

スポーツの高度な専門知識・技術を身につけている本校の生徒に、もし英語が加われば、世界に羽ばたく尖った人材になれるのではないかとというのが着想です。実際に海外で活躍する人達に話を聞いてみると、「監督の英語が分からないアスリートは契約できない」「日本のトレーナーのマッサージや医療技術はレベルが高いのに、英語ができないので世界が優秀さに気づいていない」など、潜在的なニーズがあることが分かりました。「スポーツの専門スキル+語学力」で、充実した教育ができるのではないかと思います。

カリキュラムを監修するのは、元ベルリッツ・ジャパン副社長のウーリッヒ・クルツ氏です。スポーツ外国語学科には、デイトムコース(昼間部3年制)と、イブニングコース(夜間部2年制)があり、デイトムコースは2年次に1年間の海外留学が必修となります。留学中は、主にベルリッツが運営する語学学校「ELS」に入学し、アメリカの各大学内に併設された学校で、レベルに応じたきめ細かい語学学習カリキュラムを学ぶことができます。

スポーツ×医療×トレーナー×語学力

2022年には創立100周年を迎えます。思えば履正社の歴史は、時代のニーズに応えた挑戦の歴史でもありました。経理から始まり、近年はスポーツをコアに領域を拡大してきました。今後も「スポーツ専門資格×医療国家免許×アスレティックトレーナー資格×語学力。夢を語る学校」を新たなキャッチフレーズに、スポーツと医療の分野に貢献する人材を育成していきます。

専門学校は、将来を考えている学生にとって「なりたいたい自分になれる」位置づけにある教育機関です。履正社に来れば、自分の将来が明確になってきたと思える学校であらねばならない。今後も「履正不畏」に磨きをかけ、生徒の自己実現や充実を通じて、共に成長していきたいと感じています。

